

2014年4月21日発行(14-1号)

一般社団法人日本社会福祉学会

中国・四国地域ブロック会報

発行者: 中国・四国地域ブロック担当理事: 横山正博(山口県立大学)

広報担当役員: 片岡信之(四国学院大学)

木村敦子(広島文教女子大学)

高杉公人(聖カタリナ大学)

事務局: ノートルダム清心女子大学人間生活学部 杉山博昭

岡山市北区伊福町 2-16-9

ホームページ: <http://www.socialwork-jp.com/csssw/index.html>

I. 巻頭言

2014年度が始まりました。新たな気持ちで会員の皆様におかれてはそれぞれの研究・実践に取り組んでおられることと存じます。

今年度は、5月の代議員総会で理事の改選となります。すでにご存じのとおり、中国・四国ブロック担当理事については、代議員による理事選挙により引き続き担当させていただき予定となっておりますので、よろしくお願い致します。

本年度の中国・四国ブロックの活動の柱は以下の5点です。

- (1)中国・四国地域ブロック 2014年度第46回大会の開催
- (2)中国・四国地域ブロック会報の発行
- (3)中国・四国地域ブロック機関誌「中国・四国社会福祉研究」第4号
- (4)会員連携の共同研究及び大学院生・若手研究者支援
- (5)地域ブロック委員会の活動の活性化

第46回大会については、別紙に詳細が記載してありますのでご高覧下さい。

会報は、基本的には年2回の発行予定ですが、適宜必要な情報を配信します。昨年度は、メーリングリストに登録していない会員が100名程度いらっしゃることが判明しましたので、改めて登録の依頼を致しました。お近くで未登録の会員がいらっしゃれば、ぜひとも登録をお勧め下さい。

ブロック機関誌3号は、まだホームページへのアップができていませんので、もうしばらくお待ち下さい。課題は、査読者の確保です。今年度は査読者のリストを作成したいと思いますので、ご協力下さい。

大学院生・若手研究者育成については、昨年度初の試みとして、院生及び修了生4名にご参加いただき、それぞれの研究テーマに関する報告や意見交換を行いました。ベテラン会員からこころ温まる助言をいただき、参加者の満足度は高かったと思っております。今年度は少々形を変えて、ブロック大会の企画としてワークショップ形式で実施する予定です。会員連携の共同研究については、引き続き検討事項となります。

部会委員会での審議や決定を迅速化するために、昨年度から、委員長(理事)、副委員長及び事務局長により事務局会議を開催しています。また、5月以降、代議員も変わりましたので、部会

委員会のメンバーも若干変更となる予定です。

今後も引き続き、中国・四国ブロックの活動が盛り上がりますよう、会員の皆様のご協力を
よろしくお願い致します。

(中国・四国地域ブロック担当理事 山口県立大学 横山正博)

II. 2014 年度地域ブロック大会のご案内(広島大会)

2014 年度第 46 回中国・四国地域ブロック大会を以下の要領で開催いたしますので、奮ってご
参加ください。詳細については、添付の開催要項をご覧ください。

- ・大会テーマ：発達障がい児のインクルージョンをめざして
- ・開催日：2014 年 7 月 5 日（土） 9 時 30 分～16 時 30 分
- ・会場：県立広島大学保健福祉学部（広島県三原市学園町 1-1 三原キャンパス）

III. リレーエッセイ

「共助の精神」や「人情」が発揮できる時代へ
～自分の原点と徳島・関西の実践事例から考える～

川崎医療福祉大学
柴田 学

昨年 4 月から岡山県倉敷市にある川崎医療福祉大学に助教として赴任して、早 1 年が経過しよ
うとしています。赴任前は関西圏を中心に教育・研究活動をしていたのですが、実は岡山は学部
生時代を過ごした青春の地でもあります。また、出身も徳島ですので、中国・四国地方は私にと
ってのホームグラウンドと言っても過言ではありません。今回のコラムでは、私の原点である徳
島での思い出、そして徳島・関西での実践事例に触れながら、今後の教育・研究活動の展望につ
いて述べたいと思います。したがって、非常に私的な内容から始まり、私的な内容で終わること
をご了承ください。

私は、徳島県にある貞光（現：つるぎ町）という町で生まれ育ちました。実家は貞光商店街に
位置し、現在もお米屋・商店を営んでいます。商店街の絆は非常に強く深く、商店街で実施する
月 1 回のイベントも協力しながら欠かさず実施するなど団結力もあります。大手スーパーの参入
や少子高齢化の影響により、以前の活気が無くなっていることは否めませんが、「共助の精神」や
「人情」の香りは未だ根強く残っているコミュニティです。私の幼少の頃の遊び場といえば商店
街であり、色々なお店の中に入っては走り回っていたと聞きます。今思えば非常に迷惑な事をし
ていたな、と反省していますが、商店街の方々はいつも温かく、笑顔で接してくれた思い出しか
ありません。大人になった現在でも、実家に帰ってくれば、「おお！帰ってきたんか！」、と誰も
が声をかけてくれます。そういう意味で、私は両親や祖父母とともに、貞光商店街というコミュ
ニティにも育てられたような感覚を持っています。私の専門テーマは「地域福祉とコミュニティ・
ビジネス、地域再生」ですが、自身の原点を辿れば、こうした商店街で育った環境が、研究テ

マにも大きく影響しているのではないかと思いますし、多少の「商人」根性も染み付いているように感じます。

ところで、「商人」といえば、徳島は阿波の時代から、大阪との貿易が盛んに行われていた長い歴史もあり、商人気質が強い県民性であるとも言われています。現在では地域活性化や地域再生という観点から様々な実践事例が徳島から紹介されており、商人気質を発揮しているように思います。まず、徳島のコミュニティ・ビジネスで有名な事例としては、徳島県上勝町の「葉っぱビジネス（彩事業）」を思い浮かべる人も多いのではないのでしょうか。私自身、大学院の修士課程では、上勝町の地域再生の事例を取り上げ、研究してきました。「葉っぱビジネス（彩事業）」は、高齢者を中心とした農家が、葉っぱや草花を料亭やホテル・旅館で使われる料理の「つまもの」として出荷する事業です。年収1千万円も稼ぐ高齢者農家もあるそうです。上勝町自体は人口も約1800人程度の小さな過疎の町ですが、現在ではIターン・Uターン者等の転入者も多く、視察だけでも年間4000人程度訪れ、上勝視察のための観光業者が町内に出来るほどになっています。また、コミュニティ・ビジネスというわけではありませんが、最近では徳島県神山町におけるNPOの実践にも注目が集まっています。NPO法人「グリーンバレー」では、アートによるまちづくりやアートを製作するアーティストの製作・居住支援、空家再生事業、空き店舗を活用した商店街再生事業、都心と神山をつなぐサテライトオフィス誘致事業など、様々な事業を展開しています。神山町も山間部に位置し、高齢化率も高い過疎の町ですが、近年では、転入者が転出者を上回り、神山町に拠点を置く東京の企業が続々進出しているなど、「徳島県のシリコンバレー」とも呼称されるまでに発展しています。事業の取り組み方もユニークで、「ワーク・イン・レジデンス」という発想で神山町にとって将来必要とされる人材（働き手や起業家）の移住者を選別する逆指名の制度があるなど、新たな地域づくりのモデルとしても注目されています。

関西時代は、都市部のコミュニティ・ビジネスを研究してきました。大阪府大東市にあるNPO法人「住まいみまもりたい」（写真参照）では、行政では対応出来なかったゴミ屋敷への対応、家財道具の片付け等による搬出事業を展開しているのですが、不用品回収や遺品整理をしていくなかで、まだ使用できる品物も多く、単に処分するには「もったいない」と感じていたそうです。そこで、そうした品物をリサイクルできる機能として、野崎



参道商店街内にリサイクルショップ「もったいない情報サロン」を展開しています。このリサイクルショップでは、地域住民による品物の寄贈も数多くなるとともに、地域住民が店頭商品の価格をつけたり、店番をするなどの場面も見受けられます。こうした光景は、ビジネスという「売る⇔買う」という消費行動によって形成されており、そこから「住まいみまもりたい」と地域住民のつながり、ないしは地域住民同士のつながりが生まれています。これが単なる寄贈商品を集めて無料で配布するだけの場所であれば、こうしたコミュニケーションを生まれなかったかもしれません。つまり、コミュニティ・ビジネスは、単純に収益を生む側面だけではなく、消費行動を通して、人と人の“つながり”を生み出すという、ビジネスが本来持ち備えているポテンシャルを引き出すという側面もあると言えます。

以上のように、徳島・大阪から現在の研究テーマに照らし合わせた実践事例を振り返ってきたわけですが、実際の地域福祉実践のフィールドである地域社会に目を向けると、様々な問題・課題が浮かび上がってくると思います。日々の生活を支えてきた地場産業の衰退や中小零細企業の

減退といった地域経済や産業構造問題で暗い影を落としていること。グローバル化による金融や情報、流通のシステム、そして人材の流動化が、地域社会の空洞化を加速させているなかで、終身雇用や年功序列型の賃金構造の崩壊を背景とした非正規雇用者の増大に伴う働き方の変容、さらにはワーキングプアやニートの増大、格差社会の顕在化など、生活構造はここ数十年で大きく変化しています。考えてみれば、誰もが日々の暮らしが精一杯な中で、そもそも地域福祉実践の根底にある「共助の精神」や「人情」のようなものが発揮できない時代になっているのではないのでしょうか。

そういう意味では、現在の地域社会の変容を見据えたうえで、地域住民が「共助の精神」や「人情」を発揮できるようなステージや仕掛けを地域の中で構築する必要があります。今回紹介したコミュニティ・ビジネスや地域再生のアプローチも、その構築ための方法論や考え方の一つであると考えています。研究環境は、関西から岡山に移りましたが、今後は中山間地域や過疎地域を多く抱えた中国・四国の地域福祉実践に触れながら、教育・研究活動に邁進していきたいと思っています。

Ⅶ 所属先・連絡先変更の登録のお願い

所属先などが変更になった方は、学会ホームページ (<http://www.jssw.jp/>) の「登録情報の変更」を通じて新しい所属先・連絡先をお知らせください。他の地域ブロックから中国・四国地域ブロックに移ってきても、所属先の変更を登録しない限り当地域ブロックからのお知らせが届きませんので、近辺にそのような方がおられる場合は、登録変更をするようにお声掛けをお願いいたします。

Ⅶ 中国・四国ブロック部会委員会名簿

2014年4月現在

役職	氏名	所属	備考	代議員
参与	岡崎 仁史	広島国際大学		○
委員長	横山 正博	山口県立大学	中国・四国地域 ブロック担当理事	○
副委員長	岡崎 幸友	吉備国際大学	機関誌編集委員長	○
事務局長	杉山 博昭	ノートルダム清心 女子大学	会計担当（主） （岡山事務局）	○
運営委員	加登田恵子	山口県立大学	研究担当（副） （山口事務局）	○
運営委員	金子 努	県立広島大学	機関誌担当（副）	○
運営委員	片岡 信之	四国学院大学	広報担当（主）	
運営委員	木村 敦子	広島文教女子大学	広報担当（副）	
運営委員	高杉 公人	聖カタリナ大学	広報担当（副）	
運営委員	長崎 和則	川崎医療福祉大学	機関誌担当（HP担当）	
運営委員	八重樫 牧子	福山市立大学	研究担当（主）	
運営委員	三原 博光	県立広島大学	ブロック大会担当	
運営委員	國定 美香	県立広島大学	ブロック大会担当	
監事	住居 広士	県立広島大学		○
監事	山本 浩史	岡山県立大学		